

令和2年度

ステージラボ

～オンラインセッション～

事業報告書

一般財団法人 地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、財政支援、研修・交流、情報提供、調査研究などの事業を実施しております。

地域の文化・芸術活動を担う人材の育成に取り組む「研修交流事業」として、財団設立当初から実施している公立文化施設の職員に向けた「ステージラボ」や、市町村長や文化政策担当者に向けた研修があります。

公共ホール・劇場等の運営に当たっては、『施設』、『活動』、『人的資源（人材、組織、職能）』の3要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついて存在しなければなりません。『活動』を支える『人的資源』の確立という課題に対して、地域における文化・芸術の創造拠点となる公共ホール・劇場等及び地方公共団体の職員のスキルアップやネットワークづくりを目指して実施する研修交流事業が「ステージラボ」です。

令和2年度は、2月に iichiko 総合文化センター（大分県大分市）で大分セッションを開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止を決定いたしました。代替として、オンライン上でシンポジウムや少人数ゼミ形式によるワークショッププログラム、情報交換を目的としたオンライン交流会など双方向の研修を「ステージラボオンラインセッション」と題して実施いたしました。シンポジウムは計109名の方々が聴講し、ファシリテーターやパネリストの多角的な視点に触れることができました。ワークショッププログラムには20名という多くの方々が全国から参加し、実際に双方向のオンラインツールを用いた参加型プログラムを体験しながら、今後の事業実施におけるオンラインの可能性を共に検討し、意見を交わしました。本報告書では、令和2年度に開催したオンラインセッションの実施状況を報告します。

最後に、事業開催にあたりご協力をいただいたコーディネーター、講師、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

目次

〈本文中の社名、所属、役職等は、事業実施時点のものです〉

I 事業概要	
1 事業概要	．．．． 3
2 開催実績	．．．． 4
3 都道府県別参加者数	．．．． 8
II 令和2年度事業	
1 事業概要	．．．． 11
2 参加者の属性	．．．． 12
3 コーディネーター・講師等一覧	．．．． 13
4 スタッフ一覧	．．．． 15
5 実施日程	．．．． 16
III シンポジウム	
1 概要・記録	．．．． 19
IV ワークショッププログラム	
1 コーディネーター・講師紹介	．．．． 25
2 スケジュール	．．．． 27
3 プログラムについて	
総評	．．．． 28
ゼミ記録	．．．． 34
4 参加者リスト	．．．． 39
V アーカイブ箱	
1 概要・記録	．．．． 45

I 事業概要

Ⅰ 事業概要

1 事業概要

(1) 事業目的

地域における文化・芸術の創造拠点となる公共ホール・劇場等や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員を対象に、職務内容、階層に応じた^{※1}実践的研修プログラムの実施を通して、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携による効果的な芸術支援（育成）の環境を整える。

(2) 事業内容

① 対象者

公共ホール・劇場等及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員

② 開催回数及び実施時期

原則年度2回。年度の前半及び後半に各1回ずつ^{※2}

3～4日間程度の集中研修

④ 会場

全国各地の公共ホールや劇場等において実施。^{※3}

(3) 事業の特徴

① 集中ゼミの実施

3～4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成（1セッション2～3コース程度）^{※1}。また、参加応募時にアンケートを提出いただき、事前に参加者の問題意識や参加ニーズを把握することで、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容となるよう努めている。

③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

⑤ 参加者同士のネットワークづくり

先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し^{※3}、研修を通じて全国各地から集まった参加者同士の交流を深める。

※1 令和2年度においては、オンラインの特性を生かした研修を実施するため、職務内容、階層によるカリキュラムの区別なく実施した。

※2 令和2年度においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が予定されており、交通機関の混雑等が予想されたことから、後期セッションのみの実施を予定していた。

※3 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、公共ホール・劇場等における宿泊型研修の開催を中止とし、オンラインで実施した（今年度の事業概要については、p.11を参照）。

1 事業概要

2 開催実績

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成 6 年 度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23名 23名 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18名 19名 19名
平成 7 年 度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21名 12名 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23名 33名 20名
平成 8 年 度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21名 18名 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17名 22名 21名
平成 9 年 度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業(音楽)コース 自主事業(演劇・ダンス)コース	19名 20名 15名 15名
	世田谷セッション	平成 10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 26名 16名 19名
平成 10 年 度	札幌セッション	平成 10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14名 20名 15名 20名
	神戸セッション	平成 11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15名 24名 11名 19名
平成 11 年 度	静岡セッション	平成 11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25名 20名 21名
	高知セッション	平成 12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14名 20名 21名 15名
平成 12 年 度	金沢セッション	平成 12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26名 19名 20名 16名
	熊本セッション	平成 13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19名 20名 12名 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年9月3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年3月9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年3月6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年12月4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ 愛知セッション	平成27年1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市中区)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月17日 ～ 2月20日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成27年度	札幌セッション	平成27年 7月 7日 ～ 7月 10日	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	43名	ホール入門コース 17名 事業入門コース 10名 音楽コース 16名
	(東京・赤坂開催)	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース 17名
	北九州セッション	平成28年 2月 16日 ～ 2月 19日	北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	48名	ホール入門コース 20名 音楽コース 15名 演劇コース 13名
平成28年度	上田セッション	平成28年 7月 5日 ～ 7月 8日	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター (長野県上田市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 17名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名
	(東京・赤坂開催)	平成28年10月12日～14日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	豊田セッション	平成29年 2月 21日 ～ 2月 24日	豊田市民文化会館 (愛知県豊田市)	59名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成29年度	高知セッション	平成29年 7月 4日 ～ 7月 7日	高知県立美術館 (高知県高知市)	41名	ホール入門コース 17名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 10名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成29年10月16日～18日	地域創造会議室	19名	公立ホール・劇場マネージャーコース 19名
	横浜セッション	平成30年 2月 20日 ～ 2月 23日	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市)	42名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名
平成30年度	滋賀セッション	平成30年 7月 3日 ～ 7月 6日	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県大津市)	56名	ホール入門コース 21名 事業入門コース 21名 自主事業(音楽)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成30年10月16日～18日	地域創造会議室	14名	公立ホール・劇場マネージャーコース 14名
令和元年度	富士見セッション	令和 元年 6月 25日 ～ 6月 28日	富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ (埼玉県富士見市)	41名	ホール入門コース 22名 自主事業コース 19名
	いわきセッション	令和 2年 2月 18日 ～ 2月 21日	いわき芸術文化交流館アリオス (福島県いわき市)	44名	ホール入門コース 20名 自主事業(音楽)コース 16名 公立ホール・劇場マネージャーコース 8名
令和2年度	オンラインセッション	令和 3年 2月 24日 ～ 2月 26日	オンライン	129名	シンポジウム 第1部 56名 第2部 53名 ワークショッププログラム 20名

3,404 名 (令和2年度終了時点での修了者)

1 事業概要

3 都道府県別参加者数

単位：名

	累計		
		うち 直近5年間	
			うち 令和2年度
北海道	124	26	5
青森県	19	5	3
岩手県	54	17	4
宮城県	44	5	2
秋田県	10	1	0
山形県	23	4	2
福島県	46	12	0
茨城県	74	19	3
栃木県	27	11	3
群馬県	37	5	1
埼玉県	126	23	10
千葉県	49	5	3
東京都	205	25	4
神奈川県	179	23	7
新潟県	80	6	1
富山県	88	5	1
石川県	38	0	0
福井県	41	8	4
山梨県	8	0	0
長野県	88	19	9
岐阜県	128	6	0
静岡県	139	13	3
愛知県	232	64	9
三重県	60	7	0
滋賀県	77	6	0
京都府	43	2	0
大阪府	116	27	7
兵庫県	154	31	3
奈良県	20	0	0
和歌山県	8	0	0
鳥取県	67	15	4
島根県	41	4	0
岡山県	42	8	0
広島県	119	15	3
山口県	56	3	2
徳島県	29	2	0
香川県	26	2	1
愛媛県	19	2	2
高知県	44	6	3
福岡県	264	50	20
佐賀県	18	0	0
長崎県	91	6	0
熊本県	61	7	0
大分県	67	9	6
宮崎県	41	7	2
鹿児島県	36	2	2
沖縄県	46	3	0
合計	3404	516	129

Ⅱ 令和2年度事業

II 令和2年度事業

1 事業概要

ステージラボ オンラインセッション

開催期日	令和3年2月24日（水）～2月26日（金）
開催会場	オンライン（配信事務局：地域創造会議室）
開催体制	主催：一般財団法人地域創造
対象者※	公立文化施設（ホール・劇場等）の職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体の職員。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none">・双方向オンラインツールを用いたリアルタイムで参加・視聴可能なシンポジウムやワークショップ、グループディスカッションなど少人数ゼミ形式のプログラムを実施し、オンラインにおいても双方向コミュニケーションを重視した実践的な研修を実施する。・これまで様々な理由により現地研修へ参加できない文化施設等の職員へ研修機会を提供する。・場所や時間を問わず視聴可能なオンデマンドの研修コンテンツを作成し、今後の事業実施の参考となる情報の交換を促進する。

※指定管理者である民間事業者の職員を含む。

II 令和2年度事業

2 参加者の属性

(1) オンラインセッション

コース名	シンポジウム	ワークショップ プログラム	合計
参加者数	109	20	129

参考：参加申込者数176名

①都道府県別

	シンポジウム	ワークショップ プログラム	合計
北海道	4	1	5
青森	3		3
岩手	3	1	4
宮城	2		2
秋田			
山形	2		2
福島			
茨城	3		3
栃木	3		3
群馬	1		1
埼玉	8	2	10
千葉	2	1	3
東京	4		4
神奈川	7		7
新潟	1		1
富山	1		1
石川			
福井	4		4
山梨			
長野	9		9
岐阜			
静岡	2	1	3
愛知	7	2	9
三重			
滋賀			
京都			
大阪	6	1	7
兵庫	3		3
奈良			
和歌山			
鳥取	4		4
島根			
岡山			
広島	2	1	3
山口	1	1	2
徳島			
香川		1	1
愛媛	2		2
高知	3		3
福岡	16	4	20
佐賀			
長崎			
熊本			
大分	4	2	6
宮崎	1	1	2
鹿児島	1	1	2
沖縄			
合計	109	20	129

②採用形態別

	ワークショップ プログラム	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	4	4
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	15	15
施設管理団体（民間事業者）採用職員	1	1
その他		
合計	20	20

③性別

	ワークショップ プログラム	合計
男	7	7
女	13	13
合計	20	20

④年代別

	ワークショップ プログラム	合計
20代	9	9
30代	7	7
40代	4	4
50代		
合計	20	20

II 令和2年度事業

3 コーディネーター・講師等一覧

(1) シンポジウム

【ファシリテーター】

○第1部

吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事）

○第2部

吉野さつき（アーツ・マネージャー／愛知大学文学部メディア芸術専攻教授）

【パネリスト】

○第1部

大月ヒロ子（有限会社アイデア代表取締役／おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・コーディネーター）

小川智紀（認定NPO法人STスポット横浜 理事長）

若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授）

津村 卓（一般財団法人地域創造プロデューサー）

○第2部

遠田 誠（ダンサー／振付家／まことクラブ主宰）

田上 豊（劇作家／演出家／田上パル主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督）

田村 緑（ピアニスト）

吉澤延隆（箏奏者）

津村 卓（一般財団法人地域創造プロデューサー）

(2) ワークショッププログラム

【コーディネーター】

白神ももこ（振付家／演出家／ダンサー／モモンガ・コンプレックス主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督）

【サブコーディネーター】

大園康司（振付家／ダンサー／ワークショップデザイナー／舞台音響家／ダンスユニット・かえるP主宰）

山本麦子（愛知県芸術劇場 プロデューサー）

【講師】

んまつーポス（コンテンポラリーダンスカンパニー）

豊福彬文

みのわそうへい

児玉孝文

佐久間 新 (ジャワ舞踊家)

なかむらくるみ (ダンスアーティスト)

(3) アーカイブ箱 (インタビュー映像)

【司会・インタビュアー】

大園康司 (振付家／ダンサー／ワークショップデザイナー／舞台音響家／ダンスユニット・かえる P 主宰)

矢吹修一 (いわき芸術文化交流館アリオス企画制作課 課長)

白神ももこ (振付家／演出家／ダンサー／モモンガ・コンプレックス主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

山本麦子 (愛知県芸術劇場 プロデューサー)

【出演者】

小田井真美 (AIR 環境・事業設計／さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター)

白神ももこ (振付家／演出家／ダンサー／モモンガ・コンプレックス主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

田上 豊 (劇作家／演出家／田上パル主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

中出千尋 (富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 制作部 「モガ溪谷」担当)

長島 確 (「フェスティバル/トーキョー」ディレクター／「まちと劇場の技技交換所」ディレクター)

長坂奈保美 (穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 「まちと劇場の技技交換所」担当)

会田大也 (山口情報芸術センターアーティストティック・ディレクター <学芸普及 課長>)

西 翼 (一般社団法人運動会協会理事<元 YCAM キュレーター>)

II 令和2年度事業

4 スタッフ一覧

○一般財団法人地域創造

小林弘史（事務局長）

中西 享（企画課長）

津村 卓（プロデューサー）

児玉 真（プロデューサー）

〔事務局〕 栗林礼也、山之内宏彰、畑 萌葉、吉川剛史、児島美穂、崎山碧乃

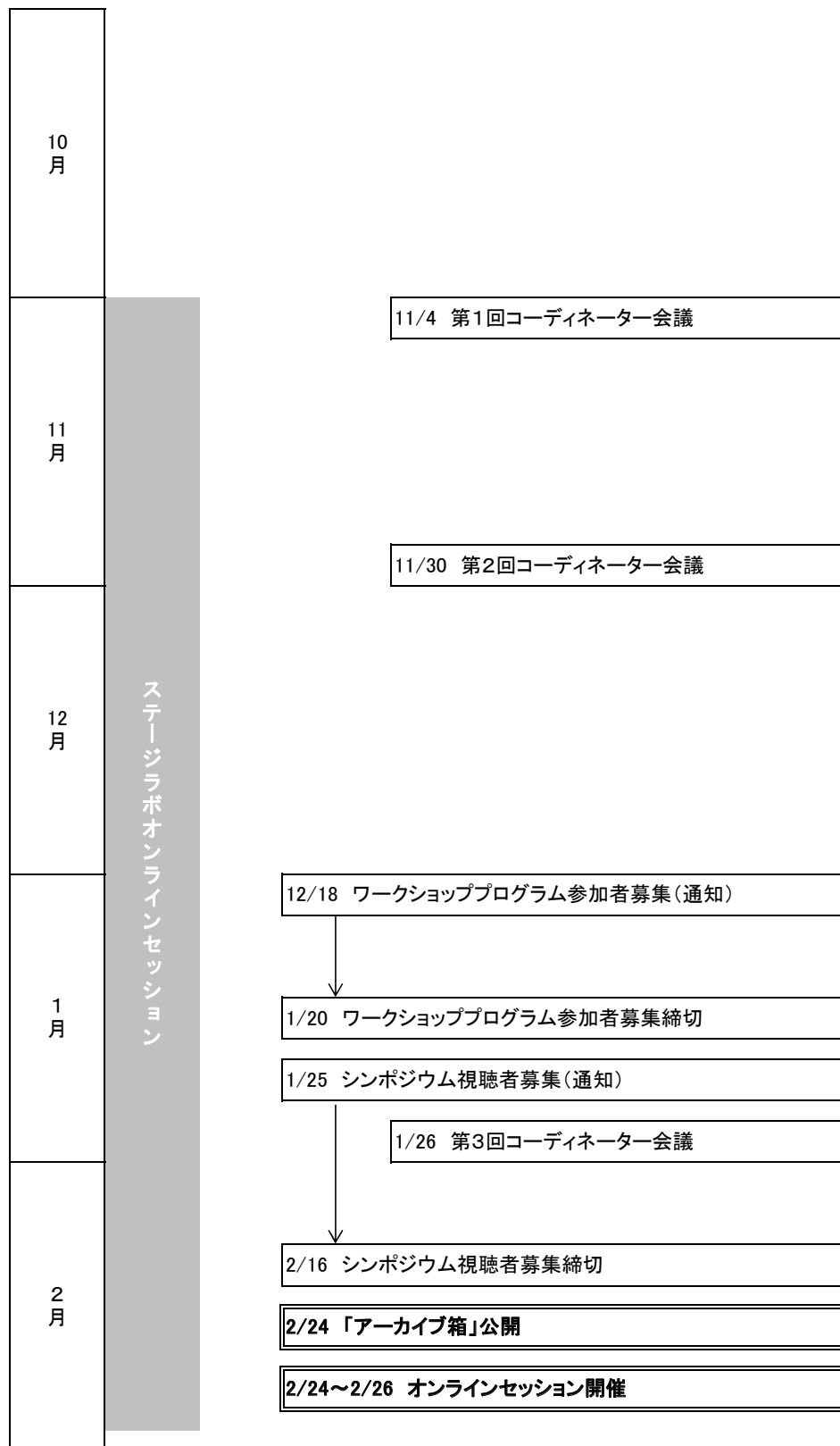
○テクニカルスタッフ

須藤崇規（映像ディレクター）

樋口勇輝（映像ディレクター）

II 令和2年度事業

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



Ⅲ シンポジウム

III シンポジウム

1 概要・記録

(1) テーマ

共通テーマ『地域に今なぜアートが必要か』

【第1部】地域とともに歩むコーディネーター

【第2部】市民と向き合うアーティスト

(2) 日時・会場

令和3年2月24日(水) 【第1部】10:30~12:00 【第2部】14:30~16:30

Zoom ビデオウェビナー

(3) ファシリテーター・パネリスト

【第1部】

ファシリテーター 吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事)

パネリスト

- ・大月ヒロ子(有限会社アイデア代表取締役/おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・コーディネーター)
- ・小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜理事長)
- ・若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授)
- ・津村 卓(一般財団法人地域創造プロデューサー)

【第2部】

ファシリテーター 吉野さつき(アーツ・マネージャー/愛知大学文学部メディア芸術専攻教授)

パネリスト

- ・遠田 誠(ダンサー/振付家/まことクラブ主宰)
- ・田上 豊(劇作家/演出家/田上パル主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)
- ・田村 緑(ピアニスト)
- ・吉澤延隆(箏奏者)
- ・津村 卓(一般財団法人地域創造プロデューサー)

(4) 概要及び目的

文化政策や公立劇場・ホールの運営・評価など、アートマネジメント分野の幅広い調査研究に取り組んでこられた吉本氏、公共ホール勤務などを経て、現場でのワークショップを自ら企画する傍ら、アウトリーチ事業やワークショップ等の企画運営を担う人材育成にも携わる吉野氏をファシリテーターに迎え、地域とアートを繋ぐコーディネーター、市民と創造活動を行うアーティストの 2 つの視点でそれぞれパネリストからの事例紹介とディスカッションを実施しました。

コロナ禍において、地域のなかで文化・芸術を発見し、育み、発信していくことが公立文化施設の重要なミッションとして再認識され、各地域の状況に応じて、今後の事業実施や劇場運営について模索が続いている中で、コーディネーター、アーティストのそれぞれの視点から、「地域に今なぜアートが必要か」をテーマにこれまでの活動を振り返り、公立文化施設の持つべき視点、展望を考えることを目的としました。

(5) 内容

【第 1 部】地域とともに歩むコーディネーター

地域のなかで生活と文化・芸術を繋ぐ重要な役割を果たしているコーディネーターは、地域をどのように捉え、どういったビジョンを描いているのか。文化・芸術のプラットフォームとして公立文化施設が持つべき視点を考えました。

導入として、東日本大震災や新型コロナウイルスの発生などが起こったここ 20 年ほどの文化・芸術をめぐる動きの中で、地域における文化的コモンズ（誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体）の重要性と、文化的コモンズと芸術あるいは劇場をつないで、地域のさまざまな課題と向き合うコーディネーターの役割について、ファシリテーターの吉本氏にお話しいただきました。

各パネリストからは、コーディネーターとしての活動を紹介いただくとともに、コーディネーターの仕事とその役割がどのようなものか、地域との関わりの中で自身が得た印象的な体験などについてお話しいただきました。

ディスカッションでは、コーディネーターとしての活動による出会いをきっかけに、新しいプロジェクトに発展し継続していったことや、「楽しい、面白い」「感動」という大切な価値観を届けるのが文化・芸術領域におけるコーディネーターの仕事であるとの気づきがあったことが紹介され、意見交換が行われました。

「劇場が地域とつながるためにはコーディネーターが必要だが、劇場だけではなく、行政や地域のいろいろな立ち位置にコーディネーターが存在し、参画・連携する状況が理想。」「地域

と一緒に歩いていくコーディネーターの人材をどのように育成していくのかを考えていかなければならないが、まずは実際にコーディネーターの仕事や相談業務に取り組んでみてほしい。」といった意見が交わされた後、「コロナ禍から社会状況が元に戻った時に、いったん低調になった文化活動をどうやって元の状態を取り戻していくのかが大きな課題となる。その時にコーディネーターの仕事が重要になってくるだろう。世の中でコーディネーターという仕事が認知され、地域とともに歩いていける状況になるよう、一步を踏み出してほしい。」という吉本氏の言葉で結んでいただきました。

【第2部】市民と向き合うアーティスト

地域で活動を行うアーティストは、地域や市民と向き合うなかで何を考え、感じているのか、ワークショップ事業に焦点を当て、様々なジャンルのアーティストの体験から、ワークショップの効果や可能性を再考し、これからの事業のあり方を考えました。

導入として、ファシリテーターの吉野氏から、『『地域・市民』と『劇場・コーディネーター・アーティスト』とが関わるワークショップという場では、アーティストが関わることで、それまでであった地域と人が捉え直されたり、もっと開かれた新しい『域』や関わりが生まれたりするのではないか。パネリストが手掛けた個々の現場で起きている事は、おそらくそうしたいろいろな関わりと共にあるものだと思う。そこではどんな繋がりや表現が生まれているのか。』との投げかけをいただきました。

各パネリストからは、アーティストとして取り組んだ地域での活動を振り返り、どんな思いで地域と向き合っているのか、そこで得られた体験が自身の創作や表現にどのように活かされているかなどをお話いただきました。

ディスカッションでは、地域での活動に何らかのビジョンを持って取り組んでいるか、地域での活動で何を残したいと考えているか、ワークショップ活動の中で参加者との繋がりを実感できたのはどんな瞬間だったのかなど、アーティスト同士がお互いどんな意識を持って地域での活動に取り組んできたか、意見交換が行われました。

津村プロデューサーからの「アーティストは地域での活動を依頼されたとき、どのように話をしていけば地域、市民と向き合っていけるか。アーティストとしてどういうことが必要とされるのか。」との問いかけに対しては、「どういった目的意識でアーティストにワークショップを依頼しているのか、ミッションは何なのかを劇場と一緒に考えられれば地域に寄り添ったプログラムができる。」「主催者はある程度形を成す結果を求めると思うが、ワークショップを通して同じ時間を共有するだけでも関わった人に対する影響はゼロではないので、どんな反応であれ心折れずに続けていきたい。」といった意見が交わされました。

視聴者である文化施設の職員の方々が、自分の暮らす地域をどのようにしていきたいのかを「自分ごと」として考えながら、コーディネーターとしてアーティストと一緒に場を作るということ、アーティストが社会のいろいろな人たちと関わっていくことは、コロナに関係なくそもそも大事なことであり、吉野氏に結んでいただきました。

Ⅳ ワークショッププログラム

IV ワークショッププログラム

1 コーディネーター・講師紹介

●コーディネーター

白神ももこ（振付家／演出家／ダンサー／モモンガ・コンプレックス主宰／富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督）

[メッセージ]

2020年、新型コロナウイルスの出現で私たちの生活環境が一転してしまい全世界の人が未知なる道を模索していくことになりました。劇場もアーティストもその空間や機構、企画や表現方法を考え直さなくてはいけない局面に立たされ、既にさまざまな企画や表現に挑戦している人もいれば、なす術が分からず立ち尽くしてしまっている人もいます。今回のプログラムでは、オンラインを利用しながら地域や自分の劇場の特徴などを今一度見直し、参加者やコーディネーター、アーティストとの対話を通して「今何をすべきか」のみならず「今何がしたいのか」を発見し、実際にかたちにしてみるまでを行います。コーディネーターである私自身も初めての試みですし、みんなが初めてのことです。このラボの時間を活用し、色々な能力やノウハウをシェアしながら一緒にまだレールのない未知のものに面白がって取り組めたらと考えています。

[プロフィール]

衣装デザインや保育士、イラストレーター、バリスタなど多彩なパフォーマー達で構成されたダンス・パフォーマンス的グループモモンガ・コンプレックスを主宰し、普段の生活の中の些細なできごとや個人史、願望などに着想したダンスを用いた作品を創作し活動している。2017-2018年度セゾン文化財団ジュニアフェロー。ダンスウェル・ティーチャーズ・コース修了（イタリア・バッサーノ・デル・グラッパ市）。現在、劇作家・演出家の田上豊氏と共に富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督を務める。

●サブコーディネーター

大園康司（振付家／ダンサー／ワークショップデザイナー／舞台音響家／ダンスユニット・かえる P 主宰）

[プロフィール]

5 歳より日本舞踊を学ぶ。桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム修了。2010 年より橋本規靖とダンスユニットかえる P を結成し、多数のダンス作品を創作。また、小学校や地域コミュニティなどで幅広い年代を対象としたワークショップを実施している。近年の研究テーマは「ダンスとアーティストと街との関わり、持続可能性」について。そのほか、舞台音響プランナー／オペレーターとして演劇作品の創作現場に携わっている。

●サブコーディネーター

山本麦子（愛知県芸術劇場 プロデューサー）

[プロフィール]

1982 年名古屋生まれ。大学卒業後、広告代理店営業職で 7 年勤務後、2014 年 4 月愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）に転職。同 7 月より企画制作グループにプロデューサーとして配属される。以後、主に演劇関係の自主事業担当として、AAF 戯曲賞、プロデュース公演、ファミリー・プログラム県内巡回公演等を担当している。2015 年ステージラボ広島セッション自主事業Ⅱ（演劇）コース参加。

●講師

んまつーポス(コンテンポラリーダンスカンパニー)

豊福彬文

みのわそうへい

児玉孝文

佐久間 新（ジャワ舞踊家）

なかむらくるみ（ダンスアーティスト）

IV ワークショッププログラム

2 スケジュール

■ 2月25日 (木) 第1日		■ 2月26日 (金) 第2日	
	コーディネーター 白神ももこ サブコーディネーター 大園康司 山本麦子		コーディネーター 白神ももこ サブコーディネーター 大園康司 山本麦子
主会場	Zoomミーティング	主会場	Zoomミーティング
10:00	9:30 受付	10:00	9:30 受付
11:00	10:00~12:00 ゼミ1「自分のことを紹介してみる」 講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子 会場：Zoomミーティング	11:00	10:00~12:00 ゼミ3「動いてみる、言葉にしてみる」 講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子、 んまつーボス、佐久間 新、 なかむらくるみ 会場：Zoomミーティング
12:00		12:00	
13:00	(昼食・休憩)	13:00	(昼食・休憩)
14:00		14:00	
15:00	14:00~17:00 ゼミ2「相手のことを聴いてみる、話してみる」 講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子 会場：Zoomミーティング	15:00	14:00~17:00 ゼミ4「とにかく、なんとかする」 講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子 会場：Zoomミーティング
16:00		16:00	
17:00		17:00	
18:00		18:00	
19:00		19:00	
20:00		20:00	
21:00		21:00	20:00~21:30 オンライン交流会 会場：Spatial.Chat

IV ワークショッププログラム

3 プログラムについて

(1) 総評

コーディネーター 白神ももこ

昔から何をやってもちょっぴり規格外になってはじかれてしまうのにも関わらず、「やったことがない」ということには呼ばれるということが多く感じています。そして、多分自分でもその方が楽しいしわくわくする、ということも自覚しています。

今年度、コロナの影響で初めてステージラボをオンラインで行うことになったということで、お話をいただきました。とは言っても自分もオンラインや映像が得意というわけではなかったのですが、正直何ができるのか手探りではありましたが、「初めて」という前例のないことということに「困ったな～」と言いつつときめいていたのは確かです。

まず私が今アーティストとして劇場での公演をする、あるいは富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督として公共ホールに関わる中で、感じていた問題意識はありました。今までの上演形態が難しくなり、パフォーマンスが「観客と出会う」ことにとてつもないケアと人々の協力が必要という、フリーランスのアーティストにとっては高い壁が立ちはだかっている状況で、アーティストと公共ホール、そして地域のコーディネーターとの連携が今まで以上に大切に密になったと感じました。

人の移動に制限がかかったことにより、地方の公共ホール自体が重要な役割を担うようにもなりました。地域によってそれぞれ状況が異なり、モデルケースに当てはめてばかりでもいられなくなった中で、今自分がいる場所がどのような場所で何が必要とされているのか、地域資源を発掘していく必要性が高まりました。そして更に地域で働く一人ひとりが自分なりの視点を持つ、アイデアやどうしたいのかを人に伝える、それぞれの能力をシェアするということを意識的にすることは、この先の地域の劇場・文化を支える動力になると考えました。

そこで、まずは参加者の皆さんがどのような考えを持ち、どのような場所で働いているのかを紹介する動画を撮ってきてもらいました。これは、良くある劇場紹介や名産品紹介だけにならないよう個々の視点（好きなものなど）を取り入れてもらうようにしました。

この、皆さんが個々で撮ってきた動画はどれも個性的で、直接会っていないのに人柄が分かりかつバーチャルで日本各地の会館を巡ることができるもので、この動画があったことは、後々のプログラムの進行や意見交換に大いに役立つ重要なものでした。

Zoomは全員に平等に「窓」があることで、それぞれに意見を言う場と聴く間が与えられるというのが、そのグループの進行を誰がどうするかさえ決めてしまえばグループワークでは有効に働いたと感じました。

2日目には、せっかくダンサー・振付家がコーディネーターをやっている、オンラインであるということなので地方で活躍しているダンサーの方々をお招きし、動いたり、インプットとアウトプットを短時間でするワークでした。ゲストダンサーとの事前の打合せでは、それぞれのダンサーの方と別々で打合せをしたのにも関わらず、みなさんの今の活動を象徴するようなゲスト出演の提案をしてくださったり、プログラムの内容を各々の状況に合わせて一緒に考えて変えてくださったりと、受け身ではなく真摯に柔軟に取り組んでくれて、プログラム内に広がりを持たせていただき、とてもありがたかったです。タイトなプログラムではありましたが、「プログラムの目的や大事なことは外さないけれど場所と人によって柔軟に展開させる」ということがごく自然にそして無理なく行われていました。それは、各ダンサーの方々が地域や自分の身の回りに対して常に考え、開いているアーティストたちだったからではないかと思いました。

最後の発表は、「なんとかする」という創意工夫の意欲がグループごとに発揮されていて、映像

技術やプレゼン技術だけではなく、離れているのに一人も取りこぼされることのない発表だったこと、そして参加者の皆さんのコミュニケーション能力が高くとても素晴らしかったと思いました。オンラインだったから今回参加できたという方も多かったと思うので、そういった意味でもステージラボをオンラインで行えたことはとても良かったと思いました。

私自身、思いはあるにせよ技術も知識もなく、やったことのない未知のプログラムについての構想を、たどたどしい言葉を何度も紡ぎながら確実なものとし、地域創造のチーム、コーディネーター、映像チーム、と次々に仲間・協力者を増やしてこのオンラインプログラムを実施するといった過程を経たことで、とても得るものが大きかったように思います。映像だったので見えない部分もありましたが、本当に地域創造スタッフの方々一人ひとり、映像の須藤崇規さんと樋口勇輝さん、そしてサブコーディネーターとして一緒に最後まで心強く支えてくれた大園康司さんと山本麦子さん、皆さんの協力なしではできなかつたと、まるで一つの公演を終わらせたときのような感想になっていますがそんな感じです。

あと！スペシャルチャットを使用したオンライン交流会は、理想はあったもののなかなか思うように使いこなせず、オンラインは時間がかかるものだな、と実感しました。

何よりも物事的前提部分からどういった経緯で今の自分の考えに至ったかなど丁寧に言葉にすることは、かなり骨が折れることではありましたが、様々な立場の方々と新しい仕事をする上で大切なことだと実践を通して実感できたことは、今後の個人の活動にも役立つことだと感じています。これを機に地域からたくさんの独自のアイデアや各地での連携、シェアが活発に行われることを祈っています。そして、直接お会いしてお仕事と一緒にできる日を楽しみにしております。本当にありがとうございました。

同じ空間で顔を突き合わせて、有限だけど濃密な時間をともに過ごし、喧々諤々、丁々発止やり合いながらお互いの人となりを知り、関係をつくっていく。

これまで当然のように大事にしてきたことが行えなくなった去年から現在にかけて、誰もが未知のものに取り組んだ（取り組まざるを得なかった）と思いますが、今回のオンラインプログラムもまた同様に、そのような「未知」に対する不安と期待を縋い交ぜにしながらのチャレンジの連続でした。このようなプログラムになることは、ほんの1年前まではとても想像できなかった、少し近未来にやってくるであろう出来事でした。いつでも現実私たちの予想や空想より少しだけ早く実体化することを実感しています。

このプログラムを実施するまでの1年間、非対面を是として、オンラインはあらゆるものに浸透してきました。我々のような舞台芸術に携わる人間、人を集める、集まって何かをすることが第一義の目的である劇場・ホールも例外はなく、このオンラインの荒波に揉まれることになりました。オンラインの是々非々は多様にありますが、本プログラムを通して劇場・ホールがこの状況下で果たす役割、地域に劇場が在る意味を考えていくことが、対面でもオンラインでも変わることのない普遍的な目標でした。一貫して、「できないこと」にどう向き合うのか？そしてどのように楽しむのか？を、企画から実施終了まで考え続けた期間だったように思います。

そのようなことを考えながら臨んだ今回のプログラムは、まずお互いを知ることからスタートしました。事前課題として自分が勤める劇場の紹介動画を撮影し編集、それを全員で見る。20名分の動画をひたすら見ていくという、対面でもかなりの集中力と根気の必要な時間でしたが、単なる紹介に留まらず、ロケーションやそこに訪れる人、生まれているコミュニティなど、地域性が垣間見える工夫を凝らした動画の連続で、オンラインでもこのように密（！）な集中を持って時間をともに過ごせたことは、望外の発見でした。そして参加者のみなさんの普段の仕事のクオリティの高さとポテンシャルを実感しました。

動画の視聴を経て、チームごとのディスカッションの時間では、オンラインの長所が十全に出ていた時間だったように思います。それぞれが自分たちの場所から参加しているという安心感から、対面では話すことができないようなトピックまで引き出され、またお互いの話を聞くというモチベーションが最後まで途切れることなく持続していました。

2日目の午前中は、メインコーディネーター白神さんの発案で、オンラインでしかなし得ない地域を飛び越えるプログラムを、というテーマで日本各所で活動するダンサーの方々をお招きし、Zoom上で参加者と一緒にワークをしたり、ダンスを鑑賞したりという時間でした。ただ一方的にアーティストのプログラムをインプットするのではなく、瞬発的に言葉にすることを課すために、川柳という枠組みを用いて表現しました。オンラインだと、どうしても一方通行のやりとりの繰り返しになりがちで、どのように双方向のコミュニケーションにしていくかに苦心しましたが、川柳という定型から出発することで、制限あるルールの中でいかに遊ぶか、そこからはみ出してもOK、という精神をそれぞれが持てるきっかけになったように思います。

最後の成果発表では、チームごとの特色、という陳腐な一言ではとても言い表せないほど豊かでそれぞれの地域の魅力や特徴が表れたとても魅力的な発表の連続でした。創作のプロセスを覗き見の中で、チームごとの関係性の作り方や、目標設定の作り方など、劇場制作の職能の一端を垣間見ることができ、個人的にも非常に得難い経験でした。

今回、私は劇場に出入りし作品を創る・関係をつくる1人のアーティストの目線を持ち続けることを一貫して意識していました。劇場の外で劇場に関わる人間として、この場所が誰にとってどのような意味を持つ場所なのかをあらためて考える。それは一つの答えがあるものではなく、当たり前のことですが100人いれば100通りのそれぞれの劇場を表す言葉があり、自分にとっての劇場の意味を持っている。前のめりに取り組むことでこぼれ落ちそうになるものが、他者の考え、視座を知ることによって気づき、立ち戻って拾えるようになる。

トライアンドエラーの繰り返しでしか物事は進展しないし、また地道な積み重ねこそが道を開いていく近道になる、ということを経験を通して教わりました。

まだまだ劇場と関わる人間にとっての困難な時期は続くと思いますが、きっとこのトライの時間は血肉となって生きてくると思います。ともに歩んでいけるよう、私も精進したいです。ありがとうございました。

「おはようございますー」「よろしくおねがいします」「聞こえますかー？」

2月25日、10時に向けて全国各地から参加者が続々と Zoom にログイン。画面上に参加者の緊張した面持ちの顔がずらっと揃いました。私自身も初めての体験で緊張していましたが少しホッとした気持ちになったことを覚えています。オンラインで遠くにいるはずなのに現地からのエネルギーがじわりと伝わってきて、これで大丈夫と思えた瞬間でした。

参加者は勤務歴1年未満の方からステージラボを受け入れたことがある施設の方まで年齢も経験も様々でした。オンライン研修のメリットとして、様々な事情で出張や研修に行きづらい（長期で職場を離れられない体制、経費負担、育児、介護、等）方にとって参加しやすいのではないかと感じました。今年一年、どの施設でもキャンセル・休館・感染症対策や事業の中止・延期、と異例尽くしで、研修時間を捻出するだけでも大変だったはずですが。そんな中で参加19館のうち、7館がステージラボ初参加館だったとのこと。オンライン研修の大きな成果と言えるのではないのでしょうか。地域と地域、現場と現場をつなぐネットワークパイプとしてのオンラインの可能性を感じました。

そもそも今回のワークショッププログラムは、全世界がフラットになってしまうオンラインの中で、どうやって「地域」の事を考えるのか、考えることはできるのか？と悩むところからスタートしました。ここ一年で舞台芸術のオンライン配信は急激に増えました。私自身、「同じ公演の地方ツアーであれば東京公演を配信すれば済んでしまう。しかしオンラインの配信ではアニメーションやゲームなどの専門メディアには勝てない。そもそも人が集まるのが否定される中で地域の劇場の存在意義とは？」と自問自答し続けた一年でした。そんな中、今、地域の劇場で何が必要とされているのか、オンラインで何ができるのか。コーディネーター3人でプログラムを考える中で、普段のステージラボの「自分の地域から外に出て外からの目で自分の地域を見直すきっかけになる」という趣旨を、今回のオンラインセッションでは参加者がそれぞれ日常の現地から参加する点を生かして「お互いがお互いの魅力を発見しあえる」に転換しよう、という目標が立ちました。具体的には、チームに分かれてそれぞれの共通点とオリジナリティを発見しあって各チームで紹介動画を作るというプログラムです。さらに、白神さんからオンラインでどこにでも繋がれる特性を生かして日本各地のダンサーと繋がる時間を作りたい、という提案がありそれぞれの現場の臨場感溢れる中継も加わり、「オンラインと地域」を詰め込んだ設計となりました。

初めはオンライン上のコミュニケーションに戸惑いながらではありましたが、2日間のワークショップの最後には各チーム素晴らしい発表となりました。職場の同僚を巻き込んで出演していただいたチーム、日本各地にいるメンバーが同じ時間に写真を撮ったチーム、メンバーのオンライントラブルが起きた時に歌とダンスでフォローして笑顔を生んだチーム、発行前のコミュニティ誌を入手して「地域のイケてるおばあちゃん」を紹介くださったチーム…それぞれ本当に個性的で「行ってみたい！！」と思う魅力にあふれていました。もちろんオンライン研修でのデメリットもありました。それぞれのパソコンスキル、ソフト、デバイス、オンライン環境の違いやグループワーク以外の雑談がなかなかしにくいことなど、挙げたらきりがありません。それでも「何ができるのか」「どうやったらできるのか」を考えお互い相談して動けば光が見えると感じられた瞬間が何度もありました。参加者の方も繋がることこそ力になるのではと感じた2日間だったと思います。このエネルギーは地域で事業をコーディネートしていく底力になることでしょう。

今回のプログラムを通して「オンラインの世界では地域に根差している場所にこそ可能性がある」

ということを痛感しました。それぞれの現場にある課題こそ魅力であり巻きこみ力であること。そして、全国にそれぞれにユニークな現場があり、「地域」と「世界」の窓口となる人がいる、それが劇場であるということ。このように全国の施設がつながっていけたらとても心強いです。

最後になりましたが参加者の皆様、地域創造の皆様、コーディネーターのお二人、ゲストアーティストの皆様、映像スタッフの皆様、そして参加者を研修に送り出してくださった施設の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

IV ワークショッププログラム

3 プログラムについて

(2) ゼミ記録

第1日 2月25日(木)

ゼミ1「自分のことを紹介してみる」

講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子

まずは自己紹介を兼ねてZoomでしりとり。その次にしりとりの言葉を文章にして‘しりとり会話’…が、いつのまにか一言質問コーナーに。あっという間に緊張が解れていきます。

次に事前課題動画「私による私の職場自慢」を見ながら自己紹介。持ち時間は3分。展望台からの景色、職場の方々の登場、植栽への



の思い..etc 普段の職場の様子が垣間見えます。北は北海道砂川市、南は鹿児島県与論町まで、みんなと一緒に日本横断の旅をしているよう。あっという間に午前中が終了しました。

《大園コメント》

最初にみなさんの顔を見たときの期待少しと不安いっぱい、これからのワクワクとドキドキ、が緋い交ぜになった表情、今でもしっかりと覚えています。オンラインという画面を通しての出会いで、初対面といいつつも自分たちのペースを保ちながら参加できる良さを感じた時間でした。

《白神コメント》

初対面どうしてどう打ち解けるか試行錯誤して「しりとり」を思いつきましたが、結講苦戦！！途中からルールも崩壊していき、もしかしてこのまま1コマ目が終わってしまうのでは、という不安もよぎりましたが、ある意味オンラインのやりにくさを最初に味わった感。

ゼミ2「相手のことを聴いてみる、話してみる」

講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子

休憩中にそれぞれの課題動画に寄せられた質問をピックアップしながら情報交換したあと、メインのグループワークへ。大園さんから5人ずつ4組のチームが発表され、それぞれの Zoom ミーティングへ移動します。1回目のワークはチームメンバーの共通点を探し、チームの名前を決めること。4つのチーム名は『日本』『わう』『花と海とお茶』『なんとなく西』に決定。翌日のチームの紹介動画作成に向けて着々と話し合いが進みます。グループで話し合う中で自分の職場、地域の特徴が相対的に見えてくる時間となりました。

《大園コメント》

各チームそれぞれの個性を発揮し、ときに困惑しながらも前向きに楽しんで話していたのが印象的でした。

《白神コメント》

どのチームも様々な角度からお互いを知ろうとする姿勢が見られました。また、Zoom で顔がずっと画面に出ていることで全員が話すことができ、自己紹介動画があったことで話題のネタがあるのも良かったと思います。



第2日 2月26日(金)

ゼミ3「動いてみる、言葉にしてみる」

講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子、んまつーポス、佐久間 新、なかむらくるみ

2日目、まずは大園さんの声かけで体を動かし朝の身体を起こしていきます。次に手元に紙とペンを用意し、「昨日の感想」「今日の期待」を川柳に。「期待と不安」「無茶ぶり」「可能性」…様々な言葉が飛び交います。

身体と頭が起動してきたら、いよいよ全国のダンサー3組に中継をつなぎ、それぞれのダンスを見て川柳を作ります。1カ所目「んまつーポス」が宮崎の劇場から、翌日公演を行う4分の作品を劇場第1号レジデンスアーティスト岡村圭祐さんとともに上演。劇場にはお隣の保育園の園児達がお客様として来場。ワッと笑う声、集中して固唾をのむ様子が画面の向こうから伝わり、ダンスを見て感想を川柳にする言葉も弾みます。2カ所目は佐久間新さんが大阪豊能のご自宅から高齢のお父様とのリハビリダンス。先ほどどうってかわってゆったりと流れる時間とトークに参加者の「ダンス」の概念もほぐれていくよう。川柳の言葉から力が抜けてきます。3カ所目はなかむらくるみさん、こちらも金沢のご自宅から。オンラインで固まった身体をほぐす、参加者自身が自分の呼吸と身体の内面に集中するヨガのような時間に続いて、ダンスカンパニー「あら・おるズ」のメンバー魚琳太郎さんとの即興ダンス。楽しい動きに皆、笑顔に。オンライン研修の「どこでも繋がれる」メリットを最大限生かした120分。オンラインを使った地域交流もイメージできるような時間になったのではないのでしょうか。

《大園コメント》

川柳ワークは不安半分でしたが、初日を経てコーディネーターからの無茶振りに慣れたのか、とても柔軟で、ときに大胆に色々な言葉が出てきて大変嬉しかったです。

《白神コメント》

各ゲストダンサーそれぞれご自身の活動を象徴するようなゲスト出演があり、今の社会におけるダンスの役割などを体感できる時間となったと思います。

【各ゲストダンサーによるワークについて(白神)】

●んまつーポス

自分たちの劇場を持ち、さらにアーティストのレジデンスも行っている非常にしっかりとした運営と地域還元をしているダンスカンパニーということで、短い中にプレゼンもしっかり考えられていることに感動。保育園児とともに(しかも二回目は別の園児たち入れ替え制)4分のダンスが見られたことで臨場感もばっちりでした。



●佐久間新さん

生活や人生がダンスと深く、そして緩やかにつながって共鳴していることに感動する時間でした。佐久間新さんと徹さん（お父様）の様子を見ていると大きな河を見ているような感覚になりました。自宅からのオンラインでも共鳴することが可能なのだという可能性を感じました。



●なかむらくるみさん

くるみさんの言葉には人柄や物事への向き合い方が感じられるので、短いワークショップをリクエストし、実際みんなで身体を動かしてみました。ダンサーの琳太郎さんとくるみさんのお題ダンスは誰かと一緒に踊ること、誰かといふことに前向きになれると思いました。琳太郎さんの爆発力と川柳にも元気もらいました。



ゼミ4「とにかく、なんとかする」

講師：白神ももこ、大園康司、山本麦子

いよいよ、各チーム動画制作も大詰め。今回作成する「紹介動画」は、本番はライブで発表し、その Zoom の画面を録画して完成動画にするというもの。各チーム、前日のワーク終了後に館内で写真を撮ったり、小道具を集めたり、台本を書いたりと色々な工夫を凝らして準備していたようです。16時に再集合していよいよ発表会。画面共有や背景、動画など Zoom でできることを駆使し、4チームそれぞれアイデア溢れる個性的な発表となりました。劇場、そこで働く人、地域の魅力がヒシヒシと伝わる動画が完成しました。話し合う中で、普段当たり前すぎて見過ごしていた職場や地域の魅力に改めて気づいた方も多かったのではないのでしょうか。ネガティブになりがちなか中、「とにかくやってみる」から生まれる強さを痛感した二日間の締めとなりました。

《大園コメント》

あれこれ選択肢がある中で、何を一番大事にして、どの部分を選びとるのか、というとても普遍的なことにあらためて向き合う時間でした。それぞれ環境が違い、自宅だったり、繋いでいるデバイスで制約があったり、通信環境がよくなかったり…そんなハードルを飛び越え、ときには迂回しながらひとつのことに邁進していく各チームの様子を目の当たりにして、共同でものを創り上げるときの熱量をオンラインという枠組のなかで感じられたことは、とても嬉しい発見でした。

《白神コメント》

チームごとに全く違う発表になったことが印象的でした。最初の課題が「自分の視点」だったからか、フォーカスのバリエーションが豊かでした。プレゼンに工夫と面白さ、遊びがそれぞれのチームに加わっていたことはこのオンラインセッションをやって良かったと感じた部分でもありました。ピンチの中で案外助けてくれるのが遊び心なのかもしれないと思いました。



Ⅳ ワークショッププログラム

4 参加者リスト

01.北海道	かわはら あきえ 河原 明恵	特定非営利活動法人ゆう 総務企画	砂川市地域交流センターゆう 開館年 2007 年
	No. 1 〒 073-0153 砂川市東3条北2丁目3-3 TEL 0125-54-3111 / FAX 0125-54-3119		大ホール 500席/686㎡ ミニホール 100席/138㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
03.岩手県	いしはら とな 石原 登納	久慈市教育委員会 文化課 企画事業係長	久慈市文化会館（アンバーホール） 開館年 1999 年
	No. 2 〒 028-0051 久慈市川崎町17番1号 TEL 0194-52-2700 / FAX 0194-52-2730		大ホール 1164席/1353.4㎡ 小ホール 344席/712.81㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
11.埼玉県	さいとう あつし 齋藤 淳	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課 主事	さいたま市文化センター 開館年 1985 年
	No. 3 〒 336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3467 / FAX 048-837-2572		大ホール 2006席/2283㎡ 小ホール 340席/486㎡ 多目的ホール 150席/320㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
11.埼玉県	たけだ さとみ 武田 里美	公益財団法人川越市施設管理公社 主事補	川越南文化会館（ジョイフル） 開館年 1994 年
	No. 4 〒 350-1151 川越市今福1295-2 TEL 049-248-4115 / FAX 049-248-4118		ホール 358席/474㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
12.千葉県	よしの まさよし 吉野 匡貴	勝浦市芸術文化交流センターKüste 芸術文化振興係 主事	勝浦市芸術文化交流センターKüste 開館年 2014 年
	No. 5 〒 299-5231 勝浦市沢倉523-1 TEL 0470-73-1001 / FAX 0470-73-0033		ホール 826席/619.095㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
22.静岡県	こばやし すずこ 小林 涼子	(株)SBSプロモーション	菊川文化会館アエル 開館年 1991 年
	No. 6 〒 439-0018 菊川市本所2488-2 TEL 0537-35-1515 / FAX 0537-35-1517		大ホール 1202席/0㎡ 小ホール 約290席/0㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算
23.愛知県	まちだ ゆい 町田 優衣	公益財団法人かすがい市民文化財団 施設サービスグループ スタッフ	文化フォーラム春日井、春日井市民会館 開館年 1999 年
	No. 7 〒 486-0844 春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213	文化フォーラム春日井	春日井市民会館 1022席/4930㎡ 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席/225㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	たけだ さおり 竹田 沙緒莉	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 事業係	知立市文化会館（パティオ池鯉鮒） 開館年 2000 年
	No. 8 〒 472-0026 知立市上重原町間瀬口116番地 TEL 0566-83-8100 / FAX 0566-83-8110		かきつばたホール 1004席/225㎡ 花しょうぶホール 293席/81.75㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

27.大阪府	おおきた あきひろ	公益財団法人河内長野市文化振興財団	河内長野市立文化会館（ラプリーホール）
	大北 彰宏	事業グループ	開館年 1992 年
No. 9	〒 586-0016	河内長野市西代町1 2 - 4 6 TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111	大ホール 1308席/583㎡
			小ホール 464席/320㎡
			ギャラリー 180㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
34.広島県	うまやはら さとし	一般財団法人みはら文化芸術財団	三原市芸術文化センター ポポロ
	馬屋原 哲司	事業企画	開館年 2007 年
No. 10	〒 723-0051	三原市宮浦2-1-1 TEL 0848-81-0886 / FAX 0848-81-2155	ホール 1209席/0㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
35.山口県	ふくち ひかり	公益財団法人山口市文化振興財団	山口情報芸術センター[YCAM]
	福地 ひかり	学芸普及課	開館年 2003 年
No. 11	〒 753-0075	山口市中園町7-7 TEL 083-901-2222 / FAX 083-901-2216	スタジオA 450席/540㎡
			スタジオB 0席/292㎡
			スタジオC 100席/0㎡
			自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
37.香川県	こんどう ちちか	公益財団法人高松市文化芸術財団	サンポートホール高松
	近藤 千智香	事業係	開館年 2004 年
No. 12	〒 760-0019	高松市サンポートホール2-1 TEL 087-825-5010 / FAX 087-825-5040	大ホール 1500席/0㎡
			第1小ホール 312席/0㎡
			第2小ホール 308席/0㎡
			自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
40.福岡県	くぼ れいな	公益財団法人筑後市文化振興公社	サザンクス筑後
	久保 玲奈	事業係	開館年 1995 年
No. 13	〒 833-0047	筑後市若菜1104 TEL 0942-54-1200 / FAX 0942-54-1205	大ホール 1311席/772㎡
			小ホール 504席/490㎡
			イベントホール 198席/178㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
40.福岡県	あべ みゆき	公益財団法人筑後市文化振興公社	サザンクス筑後
	安部 美幸	事業係	開館年 1995 年
No. 14	〒 833-0047	筑後市若菜1104 TEL 0942-54-1200 / FAX 0942-54-1205	大ホール 1311席/772㎡
			小ホール 504席/490㎡
			イベントホール 198席/178㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
40.福岡県	あきやま なつみ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
	秋山 夏未	劇場事業課	開館年 2003 年
No. 15	〒 803-0812	北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633	大ホール 1269席/8,026㎡
			中劇場 700席/5,496㎡
			小劇場 96～216席/1,285㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	かわかみ ゆうすけ	久留米市役所	久留米シティプラザ
	河上 裕介	市民文化部 久留米シティプラザ 総務課	開館年 2016 年
No. 16	〒 830-0031	久留米市六ツ門町8-1 TEL 0942-36-3081 / FAX 0942-36-3087	ザ・グランドホール 1514席/0㎡
			久留米座 399席/0㎡
			Cボックス 144席/0㎡
			自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満

44.大分県	はたやま のぶえ	九重町教育委員会	九重文化センター
	畑山 伸恵	リーダー	開館年 1999 年 文化ホール 416席/1442㎡
No. 17	〒 879-4803 玖珠郡九重町大字後野上17-4 TEL 0973-76-3888 / FAX 0973-76-3877		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

44.大分県	やさか ちかげ	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	大分県立総合文化センター
	八坂 千景	iichiko総合文化センター 企画普及課	開館年 1998 年 iichikoグランシアタ 1966席/0㎡ iichiko音の泉ホール 704席/0㎡
No. 18	〒 870-0029 大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4009		自主事業 事業予算

45.宮崎県	あない とよたろう	公益財団法人都城市文化振興財団	都城市総合文化ホール
	穴井 豊太郎	事業課 主事	開館年 2006 年 大ホール「きりしま」 1461席/700㎡ 中ホール「あさぎり」 682席/510㎡
No. 19	〒 885-0024 都城市北原町1106-100 TEL 0986-23-7140 / FAX 0986-23-7143		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

46.鹿児島県	いけだ つよし	NPO法人ヨロンSC	与論町総合体育館（砂美地来館）
	池田 剛	体育施設所長	開館年 年 総合体育館 800席/1682㎡
No. 20	〒 891-9301 大島郡与論町茶花2045番地 TEL 0997-97-5023 / FAX 0997-97-5023		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

V アーカイブ箱

V アーカイブ箱

1 概要・記録

(1) 概要・目的

参加者の都合に合わせて研修後も活用できるウェブページ「アーカイブ箱」を開設。地域の中で文化・芸術を発見し、育み、発信していくため、地域の文化・芸術に携わる皆さまに今後の参考としていただくことを目的に、地域との繋がりにオンラインを活用した文化・芸術に関する取り組みについて情報を収集し、発信した。



(2) 公開日 2021年2月24日(水)

(3) URL https://www.jafra.or.jp/project/training/online_lab02020/archive_box.html

(4) コンテンツ詳細

①インタビュー映像

地域との繋がりにオンラインを活用した文化・芸術に関する取り組み4事業について、事業担当者とワークショッププログラムのコーディネーター3名によるインタビューを実施。

i. さっぽろ天神山アートスタジオ『2020年度AIR(アーティスト・イン・レジデンス)プログラム』

【司会・インタビュアー】

大園康司(振付家/ダンサー/ワークショップデザイナー/舞台音響家/ダンスユニット・かえるP主宰)

【出演者】

小田井真美(AIR環境・事業設計/さっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター)

ii. 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ『モガ溪谷～記憶はだいたい蜃気楼～(穴あき谷のおまつり編)』

【司会・インタビュアー】

矢吹修一(いわき芸術文化交流館アリオス企画制作課 課長)

【出演者】

白神ももこ(振付家/演出家/ダンサー/モモンガ・コンプレックス主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

田上 豊(劇作家/演出家/田上パル主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

中出千尋(富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ制作部「モガ溪谷」担当)

iii. 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT『まちと劇場の技技交換所』

【司会・インタビュアー】

白神ももこ(振付家/演出家/ダンサー/モモンガ・コンプレックス主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

【出演者】

長島 確（「フェスティバル/トーキョー」ディレクター／「まちと劇場の技技交換所」ディレクター）

長坂奈保美（穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 「まちと劇場の技技交換所」担当）

iv. 山口情報芸術センター [YCAM] 『YCAM スポーツ・リサーチ』

【司会・インタビュアー】

大園康司（振付家／ダンサー／ワークショップデザイナー／舞台音響家／ダンスユニット・かえる P 主宰）

山本麦子（愛知県芸術劇場 プロデューサー）

【出演者】

会田大也（山口情報芸術センターアーティスティック・ディレクター <学芸普及 課長>）

西 翼（一般社団法人運動会協会理事<元 YCAM キュレーター>）

②全国の情報一覧

全国の事業担当者に対し情報収集を行い、情報発信を行った。

i. 対象となる情報

全国の公立文化施設や地方公共団体等で行われた、地域との繋がりにオンラインを活用した文化・芸術に関する取り組み

ii. 情報収集方法

地域創造レターおよびホームページ等により周知を行い、下記の通り、情報収集を行った。

・情報収集期間：2021年1月25日（月）～3月31日（水）

・情報提供フォーム：<https://www.jafra.or.jp/event-request/archive2020/>

(5) コーディネーター講評

アーカイブ箱はオンラインワークショップを実施するリサーチとして、今年度各地で展開されたオンライン事業についてもっと事例を知りたい、できれば裏側の話も聞いてみたい、ということで企画したスピンオフ企画です。インタビュー映像では白神・大園・山本が聞き手になり、4カ所の公立文化施設で行われた特徴的な事業について、これまでの経緯や今年度行ったオンラインプログラムの実施方法、印象的だったこと、課題点などかなり詳細に紹介されています。どの事業も今年いきなり始まったわけではなく、答えが見えているわけでもなく、これまで行ってきただ中で大切にしたい要素を今出来る方法でどうしたら実現できるか、試行錯誤の過程であるということが印象的でした。

オンラインの活用は一過性のものでなくこれから常に視野に入れて事業を考えなければならぬものになってくると思います。全国の事例集にもたくさんの事例が寄せられて掲載されて

います。参考にしたい事例があればぜひ担当者の方に問い合わせさせていただき、今度はあなたがインタビューとして輪を繋いでいただければと思います。

令和2年度ステージラボ ～オンラインセッション～ 事業報告書

編集・発行

一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11

オリックス赤坂2丁目ビル9階

電話 03-5573-4093

ファクシ 03-5573-4060

発行日

令和3（2021）年3月発行